

新型コロナウイルスに係る『検査体制の抜本的拡充』への対応について

厚生労働省の取り組み

- ①新型コロナウイルスのみを念頭に置いた検査 → ピーク時需要 約5.6万件/日
- ②インフルエンザ流行時の発熱患者への検査

発熱患者検査件数（近時の過去最大値）
1シーズン約3,000万件

インフルエンザ陰性
約2,000万人

インフルエンザ陽性
約1,000万人

新型コロナウイルスの
検査

1日平均20万件
→抗原簡易キットの利用

鳥取県における対応 <現在> 行政検査700件→800件 民間2,000件

- ①新型コロナウイルスのみを念頭に置いた検査 → ピーク時需要 1,000件/日
- ②インフルエンザ流行時の発熱患者への検査
→ 新型コロナウイルスの検査件数

（接触者等 500件
コロナ疑い 500件）

1,800件

約2,300件

◎抗原簡易キットを活用した地域の医療機関における検査体制を、県医師会・地区医師会等と協議を進め、各地区の状況を踏まえ検査体制の充実を図る。

→ 9月7日(月)開催の医療体制協議会で、県医師会長・地区医師会長等と協議

★検討のポイント → **検体採取方法の充実**（ドライブスルー型の増設、時間分離型の診療、輪番制）

<病床確保計画に基づく即応病床>

各病院との協議を継続した結果、フェーズ1の即応病床152床→161床と増